令和３年度
コロナ禍を着実に歩む予算

ここからは、総合計画の「第３編　重点プロジェクト」「第４編　施策分野別の基本計画」「第５編　計画推進に向けた取組み」ごとに、主な事業と予算を掲載します。

※新型コロナウイルスに関する社会情勢により、記載内容の一部に変更が生じる場合があります。

重点プロジェクト1　『献上桃の郷』展開プロジェクト（町のイメージアップ）

「献上桃の郷」商標登録を契機として、本町産桃のブランド化等を推進し、町のイメージアップと交流人口の拡大に努めるとともに、農家はもとより、町民所得の向上を目指します。

①質の高いモモ生産に向けた農家支援【２,543万円】

担当：産業振興課／商工観光推進室　　※うち、国県補助金等（１,405万円）

▲丹精込めておいしい桃をつくる農家

27年連続で献上指定を受けている町産桃のさらなる品質向上を目指し、各種生産農家支援に取り組みます。

・「モモせん孔細菌病防除費」や「ベニカナメモチの植栽による防風林設置費用」の助成。
・町独自の「就農者支援事業」の創設や、「地域おこし協力隊」の募集を通した新規就農者や農業後継者の確保・支援に取り組む。

②献上桃の郷こおりシティプロモーション事業【７,835万円】

担当：総合政策課　　※うち、国県補助金等（７,728万円）

楽天ゴールデンイーグルスとのオフィシャルスポンサー契約を継続し、主に仙台圏をターゲットに戦略的なシティプロモーションを展開するとともに、在京桑折会の開催、町ロゴマークグッズ販売・配布事業、年賀はがき広告媒体PR事業など、シティプロモーションの視点に立った取り組みにより、本町の魅力を内外へ発信し、交流人口の拡大、関係人口の創出を目指す。

③観光誘客プロモーション事業【１,282万円】

担当：商工観光推進室　　※うち、国県補助金等（543万円）

「レガーレこおり」の運営主体である振興公社の運営支援を行い、連携を図り、ふるさと産品の開発や「こおりうまいものフェス」等イベント開催に取り組み、「献上桃の郷」桑折町の知名度向上、イメージアップ、ブランド力向上を図り、桑折町の地域活性化に繋げる。あわせて、観光誘客促進と交流人口の拡大に努める。

▲ふるさと産品の開発で町をPR

重点プロジェクト2　『２１世紀の追分』推進プロジェクト（効果的な土地利用）

相馬福島道路を活かした効果的な土地利用を図り、移住・定住を視野に企業誘致と新たな雇用の創出に努め、さらに、広がりのある観光周遊ルートの形成による交流人口の拡大策を講じ、広域的な地域の拠点形成を目指します。

①伊達桑折IC周辺の土地利用検討と企業誘致【97万円】

担当：まちづくり推進課

相馬福島道路の全線開通が予定されるなど、本町を含めたＩＣ周辺地域の地理的優位性がますます顕著となっていることから、「新産業団地基本構想（適地選定）策定業務」の成果等を踏まえた土地利用の推進と企業誘致の活動に努める。

重点プロジェクト3　歴史まちづくり推進プロジェクト（歴史的風致維持向上計画の取組み）

先人から受け継いできた歴史的資源を次世代へ確実に継承していくため、本町の「良さ」「らしさ」を再認識し、歴史的建造物と人々の営みが一体となった良好な環境整備を進めるとともに、町のPRに努めながら“歴史探訪者”の増加を目指します。

①第28回全国山城サミット桑折大会【１,791万円】

担当：生涯学習課　　※うち、国県補助金等（１,195万円）

◇時期：令和３年10月30～31日

「史跡桑折西山城跡整備事業」の集大成として、全国山城サミットを開催し、「伊達氏発祥の地」である本町を全国に広くPRするとともに、歴史的遺産と震災からの復興を広く発信し、史跡桑折西山城跡をはじめとする歴史遺産を後世に引き継いでいく。

◀昨年度の「プレ大会」の様子

②万正寺の大カヤ周辺整備事業【２,035万円】

担当：生涯学習課　　※うち、国県補助金等（814万円）

県指定天然記念物万正寺の大カヤの保護と活用を図るため、周辺の支障木を伐採し、支柱、広場等を整備する。

▲万正寺の大カヤ

③旧伊達郡役所周辺整備事業【１,925万円】

担当：生涯学習課　　※うち、国県補助金等（770万円）

重要文化財旧伊達郡役所周辺の歴史的景観を再現するため、老朽化している門扉、周辺柵を明治時代の写真を参考に改修を行う。

▲門と両脇の柵を明治時代の姿に再現

重点プロジェクト4　町民のための庁舎整備プロジェクト（役場新庁舎の建設）

災害対策や町民活動の拠点的機能を有し、利便性や快適性を考慮した庁舎づくりを進め、町民に寄り添い頼りにされる役場を目指します。

①役場新庁舎建設事業

担当：総務課

「こおり新時代の象徴」である役場新庁舎は、昨年12月に完成し、今年１月４日に開庁。２月13日の大型地震発生時には、防災拠点としての機能を十分に発揮。今後も、「町民の安全安心の拠点」として災害対応機能の有効活用を図っていくとともに、町民ロビーや庁舎前広場などを活用した町民参加型イベントの開催など、「町民のための役場」としての利活用を図っていく。また、集約された行政機能のさらなる充実による質の高い行政サービスの提供に努め、町民に寄り添い、頼りにされる役場を目指していく。

▲さまざまな作品が展示され憩いの場となっている町民ロビー